

CocoPallet



フィリピン (東南アジア)

廃棄されていた「ヤシ殻」を再利用した循環型パレットの製造

12 つくる責任
つかう責任



15 陸の豊かさも
守ろう



17 パートナシップで
目標を達成しよう



2012年にオランダで創業された同社は、大学発の技術を活用するベンチャーであり、フィリピンにおいて、ヤシ殻を資源として再利用し、強度の高いパレット（物流において運搬時に用いる荷物台）を製造・販売している。



背景にある社会課題

- フィリピンの農産物生産高3位はココナッツ。
- 果肉と果汁を取った後の「ヤシ殻」は大量の廃棄物として残されていた。
- ココナッツ農家の所得も安定しなかった。

ビジネスモデルと製品の特徴

- 廃棄されていた「ヤシ殻」を買い取り、ココパレット（ヤシ殻のみを原料とする自然素材100%の運搬用パレット）に加工して販売。
- **大学発の技術を活用し、ココパレットは硬度、防虫性能、防火性能、耐湿性能、運搬性などにおいて既存の木製パレットと同等以上の性能を確立。**

SDGビジネスへのアプローチ

- オランダの大学（ワグeningen大学）で開発された技術を、**フィリピンの社会的ニーズに合わせて事業化。**
- **廃棄物を活用**するという「入り口」だけでなく、ココパレットの使用後の「出口」は、そのまま堆肥として農地に埋めて使えるよう、化学薬品等を一切使わない製造プロセスを確立することで、「循環型経済」へのシフトを促す製品としての位置づけを確立。
- エコ商品であるが、価格に妥協せず「**エコだからこそ安い**」を実現。**廃棄されていた材料を活用することで原価を抑制。**
- 全ての関係者にメリットがあるようビジネスモデルを構築。

SDGsへのインパクト

- 「500万個/年」の自然素材パレットの生産能力を持ち、「**50万本/年**」相当の森林資源の保護効果。
- 廃棄されていた「**1億個/年**」のヤシ殻を資源として再利用。
- ココナッツ農家に、合わせて「**およそ500万ドル/年**」相当の収入を創出

成功のポイント

- ① 大学に埋もれていた技術を、**現地の課題とマッチング**して事業化
- ② エコ製品であるからといって割高にせず、あくまで、**安価で高品質な製品開発**にこだわる姿勢
- ③ 農家への雇用創出や廃棄後の堆肥としての利用など、**全方向を満足させるビジネスモデル構築**

